

令和4年度 札幌市立札幌中学校 道徳教育全体計画

学校教育目標

『未来を開く逞しさを』

- 学ぶよこび
- 豊かな心
- 逞しい心身

道徳教育の目標

道徳教育は感性や道徳的価値を大切に育てるだけでなく、子どもたちに必要とされる「生き抜く力」の核となるものである。この認識において「道徳の時間」を初めとする教育活動全般において指導をおこなっていく。

(1) 自他の生命を尊重し、他を思いやる心を育てる。
 (2) 自ら考え、共に学び、自分の将来や理想の姿を考えながら、積極的に社会に貢献する態度を養う。
 (3) 持続可能な社会の構築に向けて、国際社会の平和と発展、環境の保全に貢献する態度を養う。

教師の願い

【求める生徒の姿】

- 学ぶよこび
- 「真理を愛し、文化を創造する能力(知)」
- 自ら学ぶ力の育成と基礎的・基本的な学力の定着
- 豊かな心
- 「人や自然を愛する豊かな情操(徳)」
- 集団への帰属意識の醸成と豊かな情操の育成
- 逞しい心身
- 「健康で逞しい体力と強靱な意志力(体)」
- 規範意識の醸成と強靱な体力と意志力の育成

【研究主題】

社会を築き、しなやかに伸びゆく生徒の育成

【研究副主題】

生徒が「つながり」を実感する授業づくり

生徒の実態 ※○(良い)●(課題)

- 〔個人〕
- 明るく素直で、人懐っこい生徒が多い。
 - 仲間とのかかわりを通して、自己や集団を高めようとする生徒が多い。
 - 道徳性(規範意識・自己肯定感・自己有用感・コミュニケーション能力が低い)
 - 自立・自律できていない生徒が多い。
 - 自己の理想の姿や夢を語れる生徒が少ない。
- 〔集団〕
- 集団としての目標が明確になれば、協力して一人一人が力を発揮できる。
 - 仲間を思いやる心がある集団である。
 - 協調性ではなく、同調性が高い集団である。
 - 現状に満足し、新たな文化を創造しようとする生徒が少ない。
 - 集団に埋没し、個性を発揮できていない生徒が多い。

各教科における道徳教育との関わり

| | |
|-------|--|
| 国語 | 思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにすることで、道徳的心情や道徳的判断力を養う。また、国語を尊重する態度を育て、郷土愛、愛国心を育む。 |
| 社会 | 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、郷土愛、愛国心を育む。公民的資質の基礎を養い、主として集団や社会とのかかわりに関する内容を育む。 |
| 数学 | 事象を教理的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高め、道徳的判断力を育成する。数学的な思考力を養うことで、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てる。 |
| 理科 | 自然の事象・現象を調べる活動を通して、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育成する。科学的な見方考え方を養い、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を育成する。 |
| 音楽 | 音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重する心につながる。音楽による豊かな情操は、道徳性の基盤を養う。 |
| 美術 | 創造する喜びを味わうようにすることは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながる。美術の創造による豊かな情操は道徳性の基盤を養う。 |
| 保健体育 | 集団で運動することを通して、粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する態度が養われる。健康・安全についての理解は、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直すことにつながる。 |
| 技術・家庭 | 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得することで、望ましい生活習慣を身につけ、勤労の尊さや意義を理解する。進んで生活を工夫し創造しようとする態度の育みは、家族愛や社会貢献、よりよい生き方の追求につながる。 |
| 英語 | 外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めることで、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する態度を育む。 |

道徳教育の推進体制

- ① 道徳推進教師と研修部、各学年の道徳係が中心となり、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動の時間と密接な関係を図り、計画的に実践研究を推進していく。
- ② 生徒の実態を踏まえながら、3年間を見通した計画的な指導を行い、補充、深化、統合の場面を意図的に設定し、生徒の道徳性の発達に視点を置き、推進していく。
- ③ 本校生徒の課題から、道徳の内容の「1 自分自身に関すること」、「2 他人の人とのかかわりに関すること」に重点を置き、道徳の時間の運用について、以下の取組を行っていくものとする。
 - ・本校の道徳教育全体計画の整備と更新
 - ・人間関係形成能力の育みに視点をあてた道徳の時間の授業づくり
 - ・道徳の時間における教材の見直しと開発

特別活動における道徳教育との関わり

特別活動の項目と道徳の項目は、近接している部分があり、相互補完の関係にはあるが、ねらいは異なる。特別活動は「なすこと」によって学ぶ」であり、集団や個人の活動を伴うが、道徳は道徳性を養うことをねらいとしている。

【A 学級活動】

- ・学級の一人としての自覚をもって行動しようとする態度を育てる。(学級組織の話し合い等)
- ・主体的に自分の進路を選択する能力を養う。(進路学習等)
- ・学級や学年及び学校の生活づくり、日常生活や学習への適応及び健康安全

【B 生徒会活動】

- ・学校の一人としての自覚をもち、自己の役割や責任を果たそうとする態度を育てる。(生徒総会・生徒会役員選挙・委員会活動 等)
- ・集団の一人としての役割・責任と協力

【C 学校行事】

- ・各行事へ積極的に参加する意欲を養う。
- ・集団の中での個人のあり方、協力・責任、勤労などの重要性の認識

各学年における指導の重点

| | |
|------|--|
| 第一学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・集団生活における社会性を身につけ、規律ある行動と豊かな表現力をもった生徒の育成(あいさつ・時間・思いやり) ・所属感・連帯感に富んだ学級・学年集団の育成 ・意欲に満ちた主体的な活動ができる生徒の育成 |
| 第二学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学生として正しい判断・価値観に基づいた行動ができる生徒の育成 ・基本的な生活習慣が確立している生徒の育成 ・豊かな情操をもち、心身ともに健全な生徒の育成 |
| 第三学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・正しい価値観を身につけ、基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成 ・自己の理想の姿の実現のために努力する生徒の育成 ・仲間への思いやりの気持ちを持ち、集団を向上させようとする自治意識が高い生徒の育成 |

総合的な学習の時間における道徳教育との関わり

| | |
|------|--|
| 第一学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集したり、自己の学習の課題を見つけ設定したりする方法を学ぶ。 ・地域公共施設調べを通して、社会の担い手の一人としての考えを学ぶ。 |
| 第二学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験活動から、勤労の尊さを学ぶ。 ・訪問先の方々とのふれ合いを通して、自他を尊重する気持ちや、充実した生き方とは何かを学ぶ。 |
| 第三学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校調べの活動を通して、自分の進路と誠実に向き合うことで、目標に向かう強い意志や、自己理解、充実した将来の生き方などを学ぶ。 |

| 学期 | 学期の全体目標 | 学年 | 各学年の目標 | 学期ごとの重点目標 |
|-----|---|------|--|--|
| 一学期 | ・新しい出会いを大切にし、他者を意識した学校生活のつながりを重視する。 ・1年間を見直し、自分の目標を設定することで、その実現に向けた計画や自分が求める姿を明確にすることを重視する。 ・コミュニケーションを円滑に進めするための基礎・基本 | 第一学年 | 新しい出会いの意味を深く考え、学校生活に慣れ、その中で理想とする生活の仕方や学級のあり方を考えていく。 | B-(9) 相互理解、寛容 B-(6) 思いやり、感謝 A-(2) 節度、節制 |
| | | 第二学年 | 中学生としての自覚をもたせる | A-(2) 節度・節制 B-(7) 礼儀 A-(3) 個性の伸長 |
| | | 第三学年 | あいさつ・時間・思いやり | A-(2) 節度・節制 A-(5) 真理の探究 B-(9) 相互理解 寛容 |
| 二学期 | ・他者と協力した活動を通して、つながりを深めることを重視する。 ・目標実現に向けた取組を進めながらも現状を振り返り、工夫することを重視する。 ・コミュニケーション活動を通して、学校で学ぶことと社会・職業・生活と関連させることを重視する。 | 第一学年 | 学級を母体とした学年としてのまとまりを重視し、そのつながりの中でとらえられる自分のあり方を考える。 | A-(3) 向上心、個性の伸長 B-(8) 友情、信頼 C-(13) 勤労 |
| | | 第二学年 | 充実した学級、学年づくり | B-(12) 社会参画 B-(15) 集団生活の充実 D-(19) 生命尊重 |
| | | 第三学年 | あいさつ・時間・思いやり | A-(1) 自主・自律 D-(19) 生命尊重 C-(12) 社会参画 |
| 三学期 | ・自分の役割や責任を果たし、他者と自立することの喜びとつながりを実感することを重視する。 ・求める姿と自分の取組みの姿を関連させて、修正、調整することを重視し、今後につなげる。 ・多様な集団や組織の中で、コミュニケーション活動を通して、人とのかかわりを築きながら、自己の成長を果していくことを重視する。 | 第一学年 | 上級生の伝統を意識しながら、中堅学年になる意識を高め、その中で次年度に向けての新たな目標・想いを描いていく。 | C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実 C-(11) 公正、公平、社会正義 D-(19) 生命の尊さ |
| | | 第二学年 | 進級的心情づくり | B-(16) 郷土を愛する態度 B-(18) 国際理解 D-(20) 自然愛護 |
| | | 第三学年 | あいさつ・時間・思いやり | B-(8) 友情 信頼 C-(18) 国際理解 D-(21) 畏敬の念 |